

不登校新聞

発行 特定非営利活動法人 全国不登校新聞社

■「不登校新聞」とは
1998年に日本で初めて創刊した不登校の情報・交流紙。不登校を原点としながら、広く子どもに関わる問題や社会のあり方について考えたい、という市民らで創刊した。創刊前年の97年9月1日前後に発生した中学生の自殺も創刊のきっかけになった。編集方針は創刊以来「当事者視点」。

■東京編集局 〒114-0021 北区岸町1-9-19
TEL 03-5963-5526
FAX 03-5963-5527
E-mail tokyo@futoko.org

■名古屋支局 〒464-0036 名古屋千種区本山町2-33-1
TEL 052-759-2375
FAX 052-763-7371
E-mail nagoya@futoko.org

■大阪通信局
TEL 050-5883-0462
E-mail osaka_c@futoko.org

毎月1日・15日発行
購読料・月820円
◎カード決済(毎月契約)
◎銀行自動振込(半年契約)
【郵便振込先】
加入者番号 00100-6-22077
加入者名 全国不登校新聞社

www.futoko.org

全道のつどい2017
今、振り返る
あの頃の思い
シンポジウム抄録

学校に行っていない私は… “楽しんじゃダメだ”とってた

中学1年生で不登校 山口真央さん



山口真央さん

9月30日から10月1日にかけて、北海道札幌市で行なわれた「全道のつどい」の若者シンポジウム抄録を掲載する。登壇者は3名。不登校した時期も「不登校」その後の歩みも異なる経験者が「今だからこその話せる不登校当時の思い」について語った。(6・7面にも掲載)

私が不登校したのは中学1年生のときでした。「文化祭で同じ係をやる」と友達と約束していたんですけど、ジャンケンで負けてしまい、私だけできなくなりました。友だちとの関係も何となく気まずくなるうち、体調を崩すことも多くなり、しだいに学校を休む日が増えていきました。

当時いちばんイヤだったのは、母が「今日はどうする？」と毎朝聞いてくること。その質問をされるたびに「どうするって、そりゃ行かないよ。でも身体が動かないんだ」と感情的にならざるを得ませんでした。でも、そのイライラを母にぶつける勇気はなくて。母と顔をなるべく合わせないようにして、気持ちの整理をつけようとしていました。

一方で、父は「そんなに行きたくないじゃあない」とおおらかに構える人だったの

で、それが後押しとなって行かなくなりました。

不登校だから ライメン NG

「学校に行かなくていいよ」と言われたものの、悪いことをしているという罪悪感はずっと消えませんでした。「みんなが学校に行っている時間帯に楽しいことをしてはいけない」と心に決めていたほどです。

あるとき、友だちのお母さんが家に来て「今からラーメン食べに行くよ」と誘うんです。「いや、学校に行っていない子はライメンなんか食べちゃダメでしょ」と必死に断るんですが、「何でダメなのよ、ライメン

食べたらいで死にはしないから」と押し切られて。以前からよく遊びに来ていたお母さんなんですけど、私のことを思ってくれての行動だったのか、ただライメンが食べたかったのかは正直わかりません(笑)。

でも、子どもながらにすごうれしくて。不登校してから、病院以外で母と連れたって外出するのは初めてのこともありました。

その後、中学2年生のクラス替えをきっかけに私は学校に戻りました。ヤンチャな父は学校に乗り込むのも好きで「担任は変えないでほしい」といろいろ話をしてきたことがありました。帰省するなり、さすがに顔で「これで学校に行けるな」と言うので、「これは行かなくちゃババいかも」と思ったのをよく覚えてます。ただ、行ってはみたものの、やっぱり楽しくないんです。友だちにも何となく気がつかわれている気がして、行けない日が増え続けていって。

原因はなくなったのになぜ行けないのか。不思議に思った父は、私のかかりつけの児童精神科医に真剣に相談したことがありました。そのとき先生が「たぶん学校と相性が悪いんじゃないか

い？」ってポロッと言ったんです。相性がどうこうなんて私は考えたこともなかった。で衝撃的だったんだと思います。その一言で私の胸につかえていたものがストンと落ちました。それ以来、学校でイヤなことがあっても「相性が悪いから」と気持ちを切り替えて行けるようになりました。

「やりたい」を「やらない」で

私は今、帯広市の「自由学舎(クラムボン)」というフリースクールのスタッフをしています。クラムボンで勉強したり、料理してすごしている子どもたちを見てみると「本当に楽しんでるんだな」というのが伝わってきます。彼らを見てると、楽しいと思えることを私ももっと楽しめばよかったなって思います。だって「楽しいことをしたい」という思いが湧いてくるというの、とても健康的で大事なことだと思えます。学校に行かない自分に罪悪感を持たないためにも、子どもの「やりたい」を大事にし、できれば親の方もいっしょに楽しんでもらえるような関わりがあるといいのかなって思います。(た)

今年2月24日、兵庫県の公園の石垣から神戸の私立高校2年生の女生徒が飛び降り自殺を図った事件で、同高校がいじめ防止対策推進法に基づき設置した第三者委員会が調査報告書をまとめ、彼女の机、イスに数え切れない紙片を貼る、「(高校を)やめろ」といじめが原因だと認めたことが報道された。こうした無残な状態は、彼女の家族が公表した写真を見ても、彼女が受けたいじめが理由のない陰湿な差別であることを象徴していると感じられる。担任教諭はこれを見ても、たんなるいたずら、遊びと判断し、いじめとは認めず、いじめに同調し、あるいは傍観していた多くの生徒もいる▼精神科医・中井久夫神戸大学名誉教授は、この現象を「いじめの透明化」と名づけた。同法施行後3年間に多くの第三者委員会や調査委員会が調査をしたが、ほとんどは自殺の原因がいじめであると認定し、そのいじめへの対応の可否の論評で終わる▼いじめに加わる生徒らの人権意識の欠如と差別意識の原因や実態、たがい認めあえる対応でやさしい関係の形成を阻害し、差別を助長する学校教育の歪み、学校に根強く残る権力性、封建性、閉鎖性というべき病根にメスを入れる調査がなければ、いじめは解決されないだろう。(た)

父母と教師を結ぶ雑誌 12月号 2017 No.802
子どものしあわせ
子どもを守る会 編
巻頭リポート 私を育ててくれた人たち
「お上手ね、この絵はなあに？」 湯川れい子 さん
特集 『子ども白書2017』を読む
憲法と児童憲章の意義を改めて考える
「子ども白書」のいま、これから
〈子ども〉をとらえる視野が広がった
教育勅語はいつ政治問題化したか
「多様な実践」の掲載をPRして
●読みもの さくらさうの風
二月 さざんか のやまさよ / 絵: 辻ノリコ
●少年法のこれから 横山 勝
●ふみちゃんのびっくり算数教室 齋藤史夫
●子どもの心を診る 光元和憲
本の泉社 〒113-0033 東京都文京区本郷2-25-6 TEL.03-5800-8494 FAX.03-5800-5353
http://www.honnoizumi.co.jp/ E-mail:mail@honnoizumi.co.jp

読むだけじゃない
ひろがる、つながる雑誌「We」
**誰もが安心して
生きられる社会を**
2017 12-1 211号
「We」隔月刊 A5判・80頁 5,400円
1冊800円(税別) (6冊/税・送料込み)
特集・記憶をつなぎ、伝える
【お話し】ガタロさん・永田 浩三さん
戦争を起こす人間に対して本気で怒れ
—四國五郎・ガタロ 師弟展
【インタビュー】上田 假奈代さん 喫茶店のふりをして考えてきたこと
—大阪・釜ヶ崎で表現の場をつくるココローム
【寄稿】宮田 隼さん 場所があって、人が来る。
—「コミュニティハウスひとのま」の6年
フェミックス | tel:045-482-6711 http://femix.co.jp/
fax:045-482-6712 E-mail:jimu@femix.co.jp 通販:http://femixwe.cart.fc2.com/